

有機農業アカデミー（仮称）カリキュラムの方向性

1 養成課程（2年制）との共通受講可能な科目

	科目名	時間数	学年	講師	ねらい	内容	教科書	備考
1	野菜栽培各論Ⅰ	30	1年	農大職員	県内野菜産地の概要、イチゴを中心として施設野菜の基礎的技術を学ぶ。	県内野菜産地の概要。野菜産地の歴史・生産状況・特徴。イチゴの生理生態と栽培技術	野菜栽培の基礎（農山漁村文化協会）	
2	野菜栽培各論Ⅱ	30	1年	農大職員	野菜の生理生態・作型・品種ICT技術を含む栽培技術を学ぶ	キャベツを中心とした秋冬野菜の生理生態・作型・品種・栽培技術。施設栽培における複合環境制御技術の基本と必要性。特にトマトやイチゴの炭酸ガス施用効果等について。	野菜栽培の基礎（農山漁村文化協会）	
3	野菜栽培各論Ⅲ— ??? —	15	1年	専門技術員	県内の野菜産地の概要及び先進地の栽培技術を学ぶ。	県内産地の概要。野菜産地の歴史・生産状況・特徴栽培技術・経営	プリント	
野菜栽培Ⅲは県内野菜産地を訪問し、歴史や現状を学ぶが、慣行栽培の産地である。オリジナル科目の7、8で有機農業実践者等を訪問するため削除する。								
4	病害虫Ⅰ（病害）	15	2年	農技センター職員	病害の発消長や生態、防除法を学ぶほか実習等を通じて病原菌について学ぶ。	病害発生仕組みと防除。抵抗性品種の利用。作物と害虫の組み合わせ。総合有害生物管理の考え方	図解でよく分かる病害虫のきほん（誠文堂新光社）	
5	病害虫Ⅱ（虫害）	15	2年	農技センター職員	害虫の発消長や生態、防除法を学ぶ	昆虫の基礎知識。害虫発生仕組みと被害。害虫の防除法。総合的有害生物管理の考え方。	プリント	
6	農薬概論	15	1年	外部講師（元県職員）	農薬の基礎知識・詳細について学ぶ。	農薬とは。農薬の種類。農薬の作用機作。農薬の安全性。登録制度。農薬の残留基準。環境への影響。	農薬のきほん（誠文堂新光社）	
7	鳥獣害対策	15	2年	森林動物センター職員	鳥獣害の現状、被害の特徴、対策を学ぶ	県下の鳥獣害の現状。シカ、イノシシ、サル、クマ、アライグマ、ヌートリアハクビシン他の被害対策	プリント	
8	農業機械Ⅰ	15	1年	農技センター職員	農業機械の基礎と構造についての知識の習得	農業と農業機械。トラクタの構造と操作。原動機の構造と整備。耕耘整地用機械の構造と利用	農業機械の構造と利用（農山漁村文化協会）	後期
農業機械Ⅱは水稻栽培で利用する機械が中心であるため削除する。								
9	農業機械Ⅱ	15	2年	外部講師（元県職員）	農業機械の整備・利用に必要となる発展的な知識を習得	稲作用機械等各種作業機の構造と利用。農業機械の利用と機械化体系	プリント	前期
10	環境創造型農業	15	2年	農大職員	環境を守り、食の安全を支える環境に優しい農業について習得する。	環境創造型農業の内容と目的。県の推進施策。有機JAS及びびょうご安心ブランド等の取組事例。推進場の課題と今後の推進方策。有機農業と観光農業。	プリント	
11	農業経営	15	1年	農大教員	農業経営の基礎理論と日本農業の現状について理解を深める。	農業の動向と農業経営。農業経営の組織と運営。農業経営の会計。農業経営の診断と設計。農業経営と情報。	農業経営概論（実教出版）	
12	農業簿記	15	1年	専門技術員	事例を元に経営開始から決算書作成までの理解を深める。	各種帳簿を用いた複式農業簿記。コンピューターを用いた複式農業簿記の実践。	農業簿記検定教科書3級・問題集3級（大原出版）	
	小計	180						

資料2



資料4

第1回検討委員

2 オリジナル科目

(1) 講義

※同じ教科書を黄色着色

科目名	時間数	区分	講師(案)	ねらい(案)	内容(案) ※教科書の目次から記載	教科書(案)	本県既存科目教科書	(参考) 埼玉県	(参考) 群馬県
1 有機農業概論	60	新	農大教員	有機農業の歴史や種類等を客観的知識として学び、有機農業への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 有機農業の特長 土づくりの技術(根圏微生物のはたらき、発酵有機物を使いこなす、緑肥作物等) 作物輪作の技術(種子に関わる技術、育苗技術、除草対策、周年栽培化等) 病虫害回避の技術 有機農業と連動させる資源循環、省エネルギー 不耕起栽培の可能性 など 	解説 日本の有機農業法(筑波書房)	—	解説 日本の有機農業法(筑波書房)	有機農業ハンドブック 土づくりから食べ方まで(日本有機農業研究会編:農山漁村文化協会)
2 土壌肥料	30	(1年)有機版に拡充	日本土壌協会	有機農業の基本技術である土づくりや肥培管理等の知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 土と肥料の基礎知識 植物の必須元素と栄養特性 施肥の原理と肥料の種類・特性 土壌診断と土づくり 環境に優しい施肥技術 など 	改訂新版 土と施肥の新知識(農山漁村文化協会)	土壌肥料Ⅰ:土と肥料の基本(誠文堂新光社) 土壌肥料Ⅱ:土と施肥の新知識(農文協)	改訂新版 土と施肥の新知識(農山漁村文化協会)	農学基礎シリーズ 新版 土壌学の基礎(農山漁村文化協会)
3 植物生理	30	(1年)有機版に拡充		植物生理の知識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 植物生理学とは 発生と形態形成 成長と植物ホルモン 光合成と代謝 環境 栄養 	絵とき 植物生理学入門 改訂3版(オーム社)	左記に同じ	絵とき 植物生理学入門 改訂3版(オーム社)	絵とき 植物生理学入門 改訂3版(オーム社)
4 流通各論(有機農産物)	15	新		現在の有機農産物の流通について、講義を通じて理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 有機農産物の流通の特徴 小売り事業者が求めるもの 消費者が求めるもの など 	—	—	—	新版 食料・農産物流通論(筑波書房)
5 生産工程管理(GAP) + 有機JAS	15	新	GAP: GAP指導員 JAS: 県内認証団体	生産工程管理の考え方、実施手法を通じ、農産物の安全管理、生産の効率化の重要性を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> GAP <ul style="list-style-type: none"> GAPとは何か 審査・認証の仕組み 導入の利点 など 有機JAS <ul style="list-style-type: none"> 認証の仕組み 導入の利点 など 	農場管理を見える化し、食の安全を確保するJGAP(日本GAP協会)	GAP: 左記に同じ	—	—
6 流通・販売・マーケティング	30	有機版で実施	農大教員 イオンアグリ創造 バイオマーケット	生産物のストーリーか等によるブランド化の手法、販路開拓、商談のポイントなど、利益を生む生産物の販売方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 有機農産物の流通の特徴 小売り事業者が求めるもの 消費者が求めるもの など 	新版 食料・農産物流通論(筑波書房)	プリント	—	新版 食料・農産物流通論(筑波書房)
7 先進事例講義	15	有機版で実施	農業士*かつ有機JAS取得者(26名)	県内外の優れた有機農業経営の事例を講義を通じて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> EC販売を利用して消費者の反応を得る。 消費者との交流体験 	プリント			
8 地域農業校外学習	30	有機版で実施	県内外の先進事例視察等	県内外の有機農業経営の実態を現地視察等を通じて学ぶ。		プリント			
9 農業基礎・実技演習	30	(1年)有機版に圧縮		小農具の取扱や手入れ、ロープワーク等農業に必要な技術を演習を通じて学ぶ。	群馬県を参考に、毎週1日の農家研修。所用の時間数が、計画160→280に増加。	プリント			
小計	240								

(2) 実習

科目名	時間数	区分	講師(案)	ねらい(案)	内容(案)	教科書	課題・確認事項等
1 先進農家派遣実習	280	有機版で実施	県内有機農業実践者	県内の有機農業経営体で実際の作業を体験することで、有機農業への理解を深める。	希望に応じた実践農家に出向き、毎週1日の実習を実施。受入農家、普及センター、市町と連携して就農計画を作成。年度末に発表会を行う(卒業の課題とする)。	なし	<ul style="list-style-type: none"> 学生を毎週1日受け入れることは可能か? 学生の就農計画作成に助言を行なうことは可能か? 受入農家のリストアップとマッチングの仕組みの構築
2 専攻実習(有機農業)	780	有機版で実施	農大職員及び外部講師	卒業後の自らの経営を見据え、個別管理の施設・ほ場での栽培技術を習得する。	※先進農家派遣研修の増加を受けて時間減(-120時間) 共通品目及び選択品目の栽培を通じた栽培技術を習得する。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ほ場栽培計画の検討が必要 休日及び長期休み期間の管理体制の検討が必要
小計	1,060						

有機専攻オリジナル科目に係る講師検討資料

	科目名	時間数	区分	ねらい(案)	講師(案)	備考
1	有機農業概論	60	新	有機農業の歴史や種類等を客観的知識として学び、有機農業への理解を深める。	農大教員 有機農業の歴史：保田 茂	半期〔授業：14コマ(28時間)＋試験：1コマ(2時間)] ×2セット
2	土壌肥料	30	有機版に拡充	有機農業の基本技術である土づくりや肥培管理等の知識を学ぶ。	日本土壌協会	
3	植物生理	30	有機版に拡充	植物生理の知識を深める。		
4	生産工程管理(GAP) +有機JAS	15	新	生産工程管理の考え方、実施手法を通じ、農産物の安全管理、生産の効率化の重要性を学ぶ。	GAP：GAP指導員 JAS：県内認証団体	
5	流通・販売・マーケティング	30	有機版で実施	農産物の流通・販売に係る知識・情報を得るとともに、販路開拓や商談でのポイント等を体験する。	農大教員 イオンアグリ創造 ビオマーケット	
6	先進事例講義	15	有機版で実施	県内外の優れた有機農業経営の事例を、講義を通じて学ぶ。	農大教員 農業経営士等かつ有機JAS取得者(候補者26名) ※稲作含む	
7	地域農業校外学習	30	有機版で実施	県内外の有機農業経営の実態を、現地視察等を通じて学ぶ。	農大職員 県内外の先進事例視察等 ※稲作含む	校外学習：終日×3回 4コマ(8時間)×3=24時間 授業：3コマ(6時間) レポートにより評価
8	農業基礎・実技演習	30	有機版で実施	小農具の取扱や手入れ、ロープワーク等農業に必要な技術を、演習を通じて学ぶ。	農大教員 外部講師	
	小計	240				